

認知症を早期に発見するために、下記の21問に回答して合計点数を計算してみましょう。
点数が高いからといって認知症であるというわけではありませんが、合計点数が31点以上になった方や不安のある方は、地域包括支援センターまたはかかりつけ医にご相談ください。（P.12・13）

記入日	年	月	日	1点	2点	3点	4点	
1	財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか			1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	
2	5分前に聞いた話を思い出せないことがありますか			1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	
3	自分の生年月日がわからなくなることがありますか			1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	
4	今日が何月何日かわからないときがありますか			1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	
5	自分のいる場所がどこだかわからなくなることはありませんか			1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	
6	道に迷って家に帰ってこれなくなることはありませんか			1. まったくない	2. ときどきある	3. 頻繁にある	4. いつもそうだ	
7	電気やガスや水道が止まってしまったときに、自分で適切に対処できますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
8	一日の計画を自分で立てることができますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
9	季節や状況に合った服を自分で選ぶことができますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
10	一人で買い物はできますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
11	バスや電車、自家用車などを使って一人で外出できますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
12	貯金のおし入れや、家賃や公共料金の支払いは一人でできますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
13	電話をかけることができますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
14	自分で食事の準備はできますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
15	自分で、薬を決まった時間に決まった分量のむことはできますか			1. 問題なくできる	2. だいたいできる	3. あまりできない	4. まったくできない	
16	入浴は一人でできますか			1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	
17	着替えは一人でできますか			1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	
18	トイレは一人でできますか			1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	
19	身だしなみを整えることは一人でできますか			1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	
20	食事は一人でできますか			1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	
21	家のなかでの移動は一人でできますか			1. 問題なくできる	2. 見守りや声がけを要する	3. 一部介助を要する	4. 全介助を要する	
参考：「地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート（DASC-21）」より作成（東京都健康長寿医療センター研究所 栗田主一）					合計点			点／84点

このパンフレットは、みなさんの大切な人がいつまでも尊厳を持って安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、そのひとつの取り組みとして作成したものです。

みんなで支えよう 大切な人

川越市のすべての人が
認知症の正しい理解者に



認知症は誰もがかかる可能性がある病気です。周囲の人が認知症になった方の本当の心を理解することは容易なことではありませんが、認知症になった方の隠された思いに耳を傾けてください。
あなたの理解やちょっとした見守り、声かけが認知症の方やその家族を支えます。



川越市

©川越市 2010

目次

- 1 認知症ってどんな病気 P.3
- 2 認知症を予防するために P.5
- 3 認知症のサインに気づいたら P.6
- 4 認知症の方への接し方 P.7
- 5 認知症の経過と対応 P.10
- 6 相談先一覧 P.12
- 7 医療機関一覧 P.13
- 8 認知症の方や家族の支援の取組み P.14
- 9 認知症かんたんチェックシート 裏表紙



©川越市 2010

認知症って どんな 病気？

認知症は、加齢によるもの忘れがひどくなった状態や心の病気と混同されがちですが、脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりすることで、生活する上で支障が出てくる状態のことをいいます。認知症は、誰にでもおこりうる「脳の病気」なのです。

▼認知症と老化によるもの忘れとの違い

認知症	もの忘れの自覚がない 	ご飯を食べたことなど体験したこと自体を忘れる 	判断力が低下する ど、どうしよう!! 	時間や場所、人との関係が分からなくなる どちらさんか? おじいちゃん! ぼくだよ!! 
	もの忘れの自覚はある 何だったかしら 	ごはんのメニューなど体験の一部を忘れる ゆうべ何食べたっけ? 	判断力の低下は見られない 大変! 消し忘れていたわ! 	時間や場所、人との関係などは分かる あなた確かお隣の... えーと 〇〇です こんにちは 

認知症の原因は？

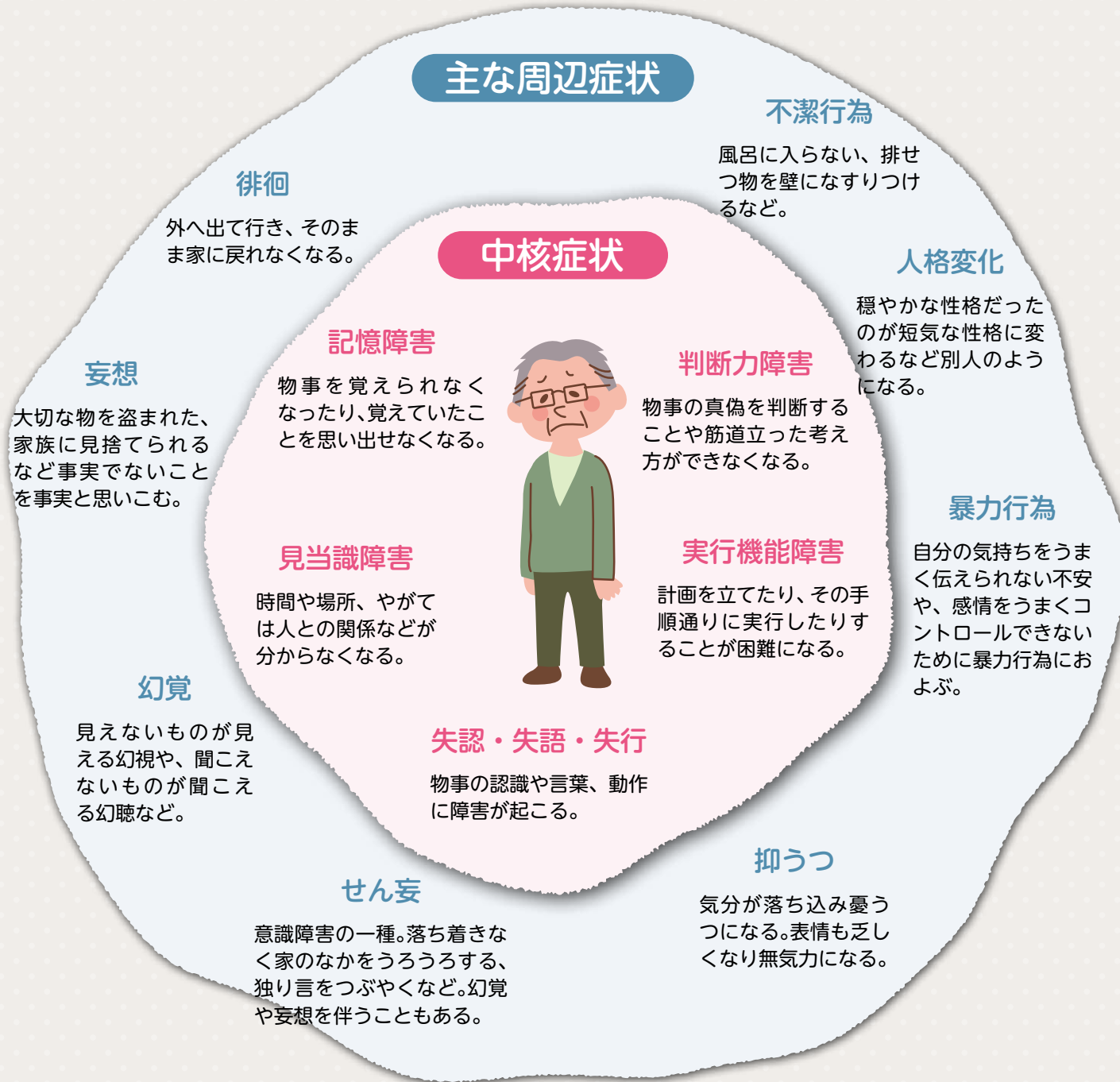
認知症には様々な原因があり、原因によって症状のあらわれ方などに特徴があります。主な原因としては次の3つの病気があげられます。

※内科や外科的な病気で認知症のような症状がみられる場合があるので、受診して診断を受けることが大切です。

アルツハイマー病	脳血管障害	レビー小体病
脳内にたまった異常なたんぱく質により神経細胞が破壊され、脳に萎縮がおこります。	脳の血管が詰まったり（脳梗塞）、破れたり（脳出血）することにより脳細胞が破壊されます。	脳内にたまったレビー小体という異常なたんぱく質により神経細胞が破壊されます。
【症状と特徴】 軽度のもの忘れから徐々に進行していき、やがて時間や場所の感覚がなくなっていくします。	【症状と特徴】 小さな脳梗塞などが起こるごとに段階的に進行します。体に麻痺を生じることもあります。	【症状と特徴】 現実にはないものが見える幻視や、手足のふるえがおこります。

▼認知症の症状

認知症の症状はさまざまですが、「**中核症状**」と「**周辺症状**」の2種類に大きく分けられます。
「中核症状」は記憶や判断力、時間や場所の認識などの認知機能が損なわれる認知症本来の症状です。
「周辺症状」は中核症状をもとに本人の性格や周囲との関わり方、環境などが関係して引き起こされる症状で、認知症の症状として知られる「徘徊」や「ものとり妄想」などはこちらにあたります。



周辺症状はこのようなあらわれます……



財布をしまった場所が思い出せない。（「**記憶障害**」）

私がなくすわけがない。普段部屋に入るのは世話をしてくれる娘だけだ。

娘が盗んだと思い込む。（「**妄想**」）

認知症を 予防する ために

生活習慣病を予防・改善することは、認知症の原因であるアルツハイマー病や脳血管障害を防ぐのにも効果的であることが分かってきています。また、活動的な生活を心がけて脳に刺激を与えることも大切です。

バランスよく食べましょう

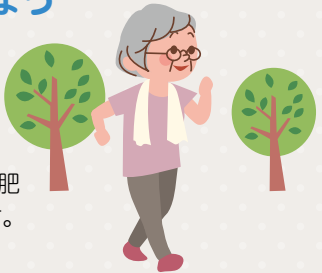
塩分や脂質のとりすぎに注意して、肉や魚、野菜などバランスのとれた食事を心がけましょう。



体を動かす習慣をつけましょう

体を動かすことで、脳への血流が増え、脳細胞の活性化につながると言われています。

ウォーキングなどの有酸素運動は肥満や生活習慣病の予防に効果的です。



脳を活発に使う生活をしましょう

地域活動へ参加して人との交流を続けたり、趣味に打ち込むことで脳に刺激を与えましょう。



休養も大切です

体だけでなく、脳の休養も大切です。1日30分程度の昼寝はアルツハイマー病の予防に効果的です。

長時間の昼寝は逆効果なので注意！



軽度認知障害（MCI）とは

軽度認知障害とは、本人や家族から記憶障害などの訴えがあるものの、日常生活には支障がなく認知症とはいえない状態です。

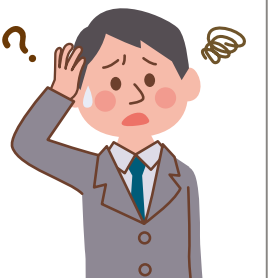
自立した生活を送れるために見落とされてしまいがちですが、軽度認知障害を放置してしまうと、認知機能の低下が続き認知症へと進んでしまう可能性が高いといわれています。認知症を予防するためには、軽度認知障害のうちに対応することが大切なのです。

若年性認知症とは

認知症は高齢者に多い病気ですが、若い方でも発症する可能性があります。64歳以下の方に発症する認知症のことを若年性認知症といいます。

若年性認知症の方には、現役で働いている方も多く、記憶障害などにより仕事や生活に大きな影響が出てしまいます。しかし、うつ病や更年期障害などと間違われてしまうことや、診断による影響をおそれて受診を避けてしまうことなどにより発見が遅れてしまいがちです。

早期に発見することで、進行を遅らせることができる場合もあるため、ご自分や家族に不安がある方は一人で悩まずにまずは相談しましょう。



認知症のサインに気づいたら

認知症は原因によっては、早期に発見して適切な対応をとることで治療や進行を抑えることが可能です。認知症のサインに気づいたら早急に「もの忘れ外来」や「認知症外来」を行っている専門医に相談しましょう。裏表紙の認知症かんたんチェックシートも活用してください。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 認知症のサイン ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

- 同じ事を何度も言ったり聞いたりする
- 置き忘れ・紛失が多くなった
- ものの名前が出てこなくなった
- 季節に合わない服装をしている
- 着替えや身だしなみ、入浴などを面倒くさがってやらなくなった
- 調理などを順序立てて行うことができなくなった
- 日課をしなくなった
- ささいなことで怒りっぽくなった

など



認知症の方への接し方

認知機能が低下していろいろなことが分からなくなっているようでも、その人らしさや感情が無くなっているわけではありません。関わり方次第では、介護者を悩ませる周辺症状の多くを和らげることができます。

認知症の方と接するとき心がけたい“3つの「ない」”

- ① 驚かせない ② 急がせない ③ 自尊心を傷つけない

- ☐ さびしくさせないようにしましょう
- ☐ 本人のペースにあわせましょう
- ☐ 笑顔でうなずき不安を取り除きましょう



- ☐ 気持ちによりそい、怒ったり否定したりしないようにしましょう
- ☐ 聞き上手になりましょう
- ☐ できることをひとつずつやってもらいましょう

どんな病院にかかればいいの?

認知症はうつ病や難聴などとも混同されやすいので、適切な治療を受けるためには専門医にかかるのが理想です。認知症の診断は、精神科や神経内科、脳神経外科、老年科などの診療科で受けられます。「もの忘れ外来」や「認知症外来」を行っている病院もあるので、本人を連れて行くのが難しい場合は、まずは家族の方だけでも相談してみましょう。(P.13)

専門医にかかるのが不安なときは

いきなり専門医にかかることに抵抗がある場合は、まずかかりつけ医へ相談してみましょう。本人の身体の状態や病歴、普段の様子も把握しているので、認知症の疑いがあると判断された場合には適切な専門医を紹介してもらえます。

また、地域の高齢者についての総合相談窓口である「地域包括支援センター」に相談してみるのがいいでしょう。

受診するときのポイント

認知症の症状のあらわれ方には個人差があり、お医者さんの前では比較的是っきりと受け答えができる場合もあります。

ありのままの姿を伝えるために日頃からどのような症状が出ているのかをメモしておきましょう。



いつごろからどのような変化や症状が出てきたのか、生活習慣、既往歴などもなるべく具体的に書いて伝えましょう。

こんなとき
どうする? ①

何度も同じことを聞く



認知症の方の心の声

「気になったことを聞いただけなのに」「何度も聞いてなんていないよ」

たとえついさっき聞いたことでも、記憶障害により聞いたこと自体を覚えていません。

○望ましい接し方

同じ内容の質問でも、認知症の方にとっては初めてのことだということを理解してください。落ち着いて初めて聞いたように対応しましょう。さりげなく話題を変えるのもいいでしょう。何度も聞いてくることは特に気になっていることかもしれません。大切に受け止めてケアにいかすことも必要です。

×こんな対応は避けましょう

「さっき説明したでしょ、いいかげんにして!」「何回同じことを説明すればいいの!」

とくに忙しいときなどは、何度も同じ事を聞かれるのは煩わしいかもしれませんが、怒鳴るなどして本人の自尊心を傷つけないようにしましょう。



こんなとき
どうする？②

「ごはんまだかな？」



認知症の方の心の声

「おなかがあいた。」
「何も食べてない。ごはんはまだかな？」

食事を食べたことを忘れたり、空腹感を感じづらくなっています。また、さびしさを感じているなど心理的要因による場合もあります。

○望ましい接し方

否定したりせずひとまず受け入れて様子を見ましょう。「このテレビが終わったら作りますね。」など他のことで気をそらしたり、「これでも食べて待っててくださいね」と小さな菓子や飲み物などを出してあげるのも良いでしょう。

×こんな対応は避けましょう

「さっき食べたでしょ！忘れたの!？」
「ちゃんと食べさせてるでしょう!」

事実を説明したり、しかったりしても本人には納得できず、反感を持たせてしまいます。何度も同じことを言ってきてもやさしく対応するよう心がけましょう。



こんなとき
どうする？③

「財布盗ったでしょう!!」



認知症の方の心の声

「なくなるはずない！誰かに盗られた!」
「盗めるのは○○しかいない。」

本人がしまい場所を忘れているだけの場合がほとんどですが、その自覚がありません。普段お世話をしている身近な人ほど疑われてしまいます。

○望ましい接し方

疑われることはショックかもしれませんが、怒ったりせずに一緒に探してあげましょう。「私はここを探すから、あのあたりを探してね。」などと誘導して本人が見つけれられるようにしましょう。見つかったら「よかったね」と一緒に喜んであげましょう。

×こんな対応は避けましょう

「どこかにしまい忘れてるんじゃないの!？」
「ほらここにあるじゃない!」

反論してもかえって妄想を深めてしまいます。また、探した人が見つけると隠していたと疑われてしまいます。見つかったときに責めることも感情的なしこりを残すので避けましょう。



できなくなったことよりも、 できることに目を向けましょう

認知症によってうまくできないことは増えていきますが、過剰な手助けは残された機能を使う機会を奪うことになり、認知症の進行につながります。

現在できることをできるままにするためにも、認知症の方が今どこまでできるのかを見極めながら、時間がかかっても自分でできることは、なるべく自分でしてもらいましょう。



薬も効果的に利用しましょう

認知症の研究は進んでいますが、残念ながら完治させるような薬はまだ開発されていません。

しかし、認知症の原因であるアルツハイマー病などの病気の進行を抑える薬や、幻覚や妄想に効く向精神薬、昼夜逆転を元に戻すための睡眠薬など周辺症状をやわらげる薬もあります。

お互いによりよい関係を保ち穏やかな生活を送るためにも、費用や副作用などについて医師に相談しながらうまく利用しましょう。

認知症の方を狙った悪徳商法に注意！

高齢者を狙った悪徳商法が増えています。特にひとり暮らしの高齢者は被害にあいやすく、発見が遅れることも多いので、家族や地域の方は注意が必要です。

認知症の方は、よく分からないまま高額な契約してしまったり、同じものを何度も買わされてしまったりするおそれがあります。家の中に見知らぬものが増えていたり、同じ業者が何度も出入りしていたりしないかなど不審な様子がないか注意しましょう。

困ったときは消費生活センターへ

地域の消費生活センターでは消費者被害の相談を受け付け、必要に応じてアドバイスや、適切な相談先の紹介を行っています。被害に気づいたらまずは相談してみましょう



成年後見制度を活用しましょう

成年後見制度は判断能力が不十分になった方に代わり、家庭裁判所により選任された成年後見人が財産の管理や各種手続きなどを行える制度です。悪徳商法などの被害に対して後から解約することもできます。



認知症の経過と対応

認知症の症状に応じた対応・支援体制は、以下のとおりとなっています。認知症を引き起こす疾患や身体状況などにより、必ずしもこの通りになるわけではありませんが、ご本人の様子により大まかな状況を把握していただき、今後を見通す参考としてください。表は、右に行くほど認知症が進行していることを示しています。認知症の相談はまずは地域包括支援センター（P.12）がお受けします。

本人の様子 (見られる症状や行動の例)		軽度認知障害 (MCI)*	認知症を有するが 日常生活は自立	誰かの見守りがあれば 日常生活は自立	日常生活に手助け・ 介護が必要	常に介護が必要
		物忘れはあるが、金銭管理や買い物、書類作成等を含め、日常生活は自立している。	買い物や事務、金銭管理等にミスがみられるが、日常生活はほぼ自立している。	・服薬管理ができない。 ・電話の応対や訪問者の対応などが1人では難しい。	・着替えや食事、トイレ等がうまくできない。 ・場所、日時がわからなくなる。	・ほぼ寝たきりで意思の疎通が難しい。 ・飲み込みが悪くなり、食事に介助が必要。
ご本人、ご家族へのお願い		●まずは、かかりつけの医師などの医療機関の診察を受けましょう。 ●ご本人、ご家族だけで抱え込まず、高齢者の総合相談窓口「地域包括 ●認知症に関する正しい知識・理解を深めましょう。(認知症サポーター ●いざというときの事態(行方不明など)に備えましょう。(徘徊高齢者				
認知症の方を支えるサービス等	認知症や 要介護状態にならない、 悪化させないための予防	運動や頭の体操などによる予防を行う(認知症予防教室(P.14)、自主		グループ、ときも運動教室等)		
		悪化させないため通いでリハビリ		を行うほか、入浴、食事などのサービスを利用する(通所介護、通所リハビリ)		
		地域でみんなと交流する(オレンジカフェ(P.14)、サロン)				
		趣味や特技を生かした活動(老人クラブ、ボランティア活動)				
	医療機関	地域のかかりつけ医、認知症の専門医療機関(精神科、脳神経外科、神経		内科等(P.13))		
		認知症疾患医療センター(丸木記念福祉メディカルセンター等(P.12))				
		自宅で医療・看護		サービスを受ける(訪問看護)		
	在宅介護			自宅で食事、入浴などの支援を受ける(訪問介護、訪問入浴、定期巡回・随時対応型訪問介護看護等)		
		通いでレクリ		エーションや入浴、食事などのサービスを利用する(通所介護、通所リハビリ)		
		通いを中心として訪問や泊まりの		サービスを利用する(小規模多機能型居宅介護)		
				一時的な宿泊サービスが必要になったとき(短期入所生活介護、短期入所療養介護)		
	生活支援	食事を届けてくれる(配食サービス)、庭仕事などをお願いする(シルバー		人材センター)		
		安否確認・見守り(緊急通報システム、配食サービス、川越市ときも見守り		ネットワーク)		
		行方不明への備え(徘徊高齢者家族支援サービス事業(GPS、川越市お帰り		安心ステッカー(P.14)、徘徊高齢者等SOSネットワーク)		
		日常生活の手続き支援(日常		生活自立支援事業)		
	本人発信支援 ・ 家族支援			日常生活の手続き、財産管理(成年後見制度)		
		認知症の本人同士で体験や希望等を語りあいたい(本人ミーティング		(P.14))		
本人や家族などのつどい、家族同士の情報交換を行いたい(オレンジカフェ、		家族介護教室、家族介護交流会(P.14)、認知症の人と家族の会、介護者サロン)				
介護や認知症に関する相談をする(認知症相談会、認知症ケア専門相談会		(P.14)、認知症の人と家族の会、居宅介護支援事業所)				
住まい	認知症について理解する、介護方法を学ぶ(認知症サポーター養成講座、		家族介護教室(P.14)) 地域で安心して介護をする(介護マーク配布事業)			
	見守りサービスなどがある住宅に住む(サービス付高齢者向け住宅)					
	見守りサービスなどがある住宅に住む(ケアハウス)		家庭的な環境で共同生活を送る(認知症対応型共同生活介護(グループホーム))			
					施設で介護を受ける(介護老人福祉施設、介護老人保健施設)	

もの忘れが気になりはじめたら・・・ 一人で悩まずに相談しましょう

●川越市地域包括支援センター

お住まいの地域ごとに設置されています。
担当のセンターについては、別紙をご参照ください。

地域で暮らす高齢者のみなさんを保健・医療・福祉・介護などのさまざまな面から総合的に支える機関です。専門的知識を持つ職員が、高齢者の方が抱える問題の解決に向けたお手伝いをします。本人だけでなく、家族や地域のみなさんからの相談も受け付けています。一人で抱え込まずに、まずは地域包括支援センターにご相談ください。

<認知症地域支援推進員>

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを支えるために配置された専門職です。市役所や地域包括支援センター等に配置されており、医療機関や介護サービス、地域の支援機関の間の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行っています。

●福祉相談センター

どこに相談してよいかわからない場合は福祉相談センターへご相談ください。
川越市協田本町8-1U-PLACE3階(川越市民サービスステーション内)
TEL.049-293-4220(直通) FAX.049-293-4227

●川越市介護保険課

介護保険サービスについての相談、要介護認定の申請の受付を行なっています。
川越市元町1丁目3番地1(川越市役所内) TEL.049-224-6402(直通) FAX.049-224-5384

●埼玉県内の認知症疾患医療センター(川越市近隣)

受診や対応方法について、電話や面談による相談ができます。鑑別診断や初期対応、身体合併症や周辺症状への対応を行ないます。

医療機関名	所在地	TEL
埼玉精神神経センター	さいたま市中央区本町東 6-11-1	048-857-6811
丸木記念福祉メディカルセンター	入間郡毛呂山町毛呂本郷 38	049-276-1486
あさひ病院	狭山市水野 592	04-2957-1202

●認知症の人と家族の会(埼玉県支部)

認知症の人をかかえて、介護で悩んだり戸惑ったりしている方のための電話相談窓口です。
☎ 048-814-1210 (受付時間/月・火・水・金・土 10:00～15:00 年末年始・祝日除く)

●埼玉県・さいたま市若年性認知症サポートセンター

埼玉県若年性認知症コーディネーターがご主人やご家族からのご相談(社会保障・医療・サービス受給・就労支援等)に応じます。
☎ 048-814-1212 (受付時間/月～金 9:00～16:00 年末年始・祝日・夏季休暇を除く)

●若年性認知症コールセンター

若年性認知症(65歳未満の発症)について、専門教育を受けた相談員が相談に応じます。
☎ 0800-100-2707 (受付時間/月～土 10:00～15:00 ※水曜日は10:00～19:00 年末年始・祝日除く)

●成年後見制度に関する相談(社会福祉法人川越市社会福祉協議会)

電話による相談に加え、専門職(弁護士等)による無料相談所を月2回程度開所しています。
☎ 049-225-5703(代) (受付時間/月～金 9:00～17:15 年末年始・祝日除く)



認知症かどうか、医師に診てもらいたい!

まずは、かかりつけ医に相談しましょう。本人の身体の状態や病歴、普段の様子も把握しており、日ごろから受診しているかかりつけ医は、最も身近な相談窓口です。

●認知症の受診が可能な川越市内の医療機関(令和6年10月現在)

・川越市医師会

名称	住所	電話番号	認知症 専門外来 (無い場合 は空欄)	受診の予約 (不要の場合 は空欄)
池袋病院	笠幡 3724-6	049-231-1552		
猪熊外科胃腸科	新宿町 5-4-11	049-242-6780		
ウニクス川越予防医療センタークリニック	新宿町 1-17-1 ウニクス川越 3 階	049-220-0220	有	必要
うわべ内科クリニック	稲荷町 18-6	049-257-5655		
おがわ内科クリニック	霞ヶ関東 1-10-27	049-237-1500		必要
帯津三敬病院	大中居 545	049-235-1981	有	必要
オレンジ在宅クリニック	新宿町 1-4-11 間仁田ビル 1 階	049-293-6975	有	必要
かすみクリニック	的場 2836-33	049-232-4560		必要
霞ヶ関整形外科	的場 2218-4 ベルアート 201	049-234-3981		
霞ヶ関南病院	安比奈新田 283-1	049-232-1313	有	必要
川越中央クリニック	協田本町 1-5	049-220-5500		
川越豊田町クリニック	豊田町 3-2-4	049-246-1024		
岸病院	上戸 101	049-231-1564		必要
黒川医院	菅原町 20-21	049-222-1482		必要
坂本クリニック	的場北 1-17-26	049-233-0031	有	必要
サクマこころのクリニック	菅原町 21-5 川越菅原ビル 4 階	049-224-8022		必要
さとうクリニック	中原町 2-16-3 第2武州ビル 1 階	049-225-8088		
鈴木脳神経外科	笠幡 2082	049-233-7701	有	必要
西部診療所	天沼新田 307-1	049-233-1114		必要
双泉会クリニックかわごえ	旭町 1-16-13 ラメール川越 1 階	049-257-5544		必要
傍島外科	藤間 937-3	049-245-3211		
たかはしファミリークリニック	月吉町 24-1	049-224-0101		
田中医院	宮下町 1-2-12	049-222-0002		
得丸医院	協田町 7-11	049-222-1755	有	
トワーム小江戸病院	下老袋 490-9	049-222-8111	有	必要
なるかわ内科・脳神経クリニック	的場 1215-3	049-299-8687		必要
はつかり耳鼻咽喉科クリニック	連雀町 9-3	049-227-3756		必要
ハヤカワクリニック	東田町 23-2 ドミ東田 105	049-247-5733		必要
はら脳神経・頭痛クリニック	宮元町 34-10	049-272-7577	有	必要
広沢医院	新富町 1-6-3	049-222-0962		
ひろせクリニック	新富町 2-4-3 木村屋ビル 3 階	049-222-1199		必要
松本医院	藤間 1123	049-242-0466	有	必要
三井病院	連雀町 19-3	049-222-5321	有	必要
武蔵野総合病院	大袋新田 977-9	049-244-6340	有	必要
山口病院	協田町 16-13	049-222-0371	有	必要
やまぶきクリニック	六軒町 2-10-3	049-228-2112		
ゆきさだクリニック	新宿町 3-17-3	049-244-0834		

・その他

名称	住所	電話番号	認知症 専門外来 (無い場合 は空欄)	受診の予約 (不要の場合 は空欄)
川越セントノア病院(※入院のみ)	下赤坂 290-2	049-238-1160		
埼玉医科大学総合医療センター	鴨田 1981	049-228-3460		必要

※医療機関により、担当医の診察日等が異なるため、必ず事前に電話で確認してから、受診してください。

認知症の方や家族の支援の取組み

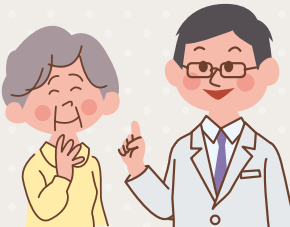
○本人ミーティング

認知症の本人が集い、自身の体験や希望、必要としていること等を本人同士で語り合う本人ミーティングを開催しています。



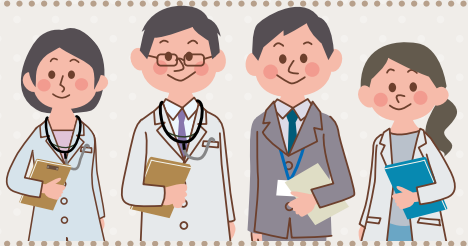
○認知症相談会

認知症についての専門的な知識を有する医師が相談に応じます。



○認知症ケア専門相談会

家族や介護の関係者などを対象に認知症の方への対応方法や認知症ケアに関する相談に専門職が応じます。



○認知症初期集中支援チーム

専門医との連携のもと、認知症が疑われる方や認知症の方に対し、専門職がチームとなって早期に集中的に支援を行います。

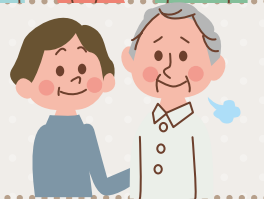


○家族介護教室

医療・介護の専門職による介護に関する講義と参加者同士の交流を行います。

○家族介護交流会

家族介護者同士の交流が継続的に行われ、悩み等を話しあい、安心して介護が継続できるよう交流会を開催しています。



○認知症予防教室

認知症予防に関心を高め、自ら予防方法を学習する講座を開催しています。



○オレンジカフェ

認知症の方も、ご家族も…、誰もが気軽に集える場 **オレンジカフェ** にぜひご参加ください。



○徘徊高齢者家族支援サービス事業

「徘徊探知システム」の利用に係る経費の一部を助成します。

認知症等により、外出時に道に迷うおそれのある在宅高齢者が行方不明となった場合に、早期発見、事故の未然防止のため「川越市お帰り安心ステッカー」を配布しています。



介護はがんばりすぎないで

たとえ認知症を理解していたとしても、認知症の方の言動や行動に対応する介護者の負担は相当なものです。また、そのことを誰も理解してくれない、自分の時間がない、自分の介護や接し方は間違っているのではないかなどと多くの介護者が悩まれます。

どうか、一人で背負い込まないでください。周囲の人々に助けを求めましょう。

地域包括支援センターやケアマネジャーは、介護者を支えます。

自分を追い詰めすぎないために…

- 悩みや不満を打ち明けられる相手を作る
- 自分の時間を作る
- なんでも完璧にやろうとは思わない



- わざと失敗しているのではなく病気のせいだと割り切る
- 自分を責めない
- 家族の会などに参加する

ご存知ですか？
「介護マーク」を
ご活用ください！



【こんなときに】

- ◎ トイレに付き添うとき
- ◎ 女性用下着を購入するとき
- ◎ 婦人科などの診察室に付き添うとき など



認知症の方の介護は、他人から見ると介護していることが分かりにくいので、時には誤解や偏見を持たれることもあります。介護する方が、介護中であることをさりげなく周囲に理解していただくために、「介護マーク」の配布を行なっています。

認知症サポーターになりましょう

『認知症サポーター』とは、認知症の方やそのご家族を温かく見守る応援者のことです。なにか特別なことをする人ではありません。まずは「認知症について正しく理解し、温かく見守ること」がスタートです。川越市では、一人でも多くの方が、地域において認知症の方への支援の輪を広げていけるように『認知症サポーター養成講座』を開催しています。

認知症サポーター養成講座を受講した方には、認知症サポーターの印として、オレンジリング(ブレスレット)を差し上げています。

